東南アジアの自然と農業研究会

第 99 回研究会のご案内

第 99 回定例研究会を開催いたします。今回は、京都大学大学院農学研究科の **太田翼** 氏と **岡田　尚也** 氏に下記の内容のように報告していただきます。皆様お忙しいことと思いますが、多数のご参加と活発な討論を期待してお待ちしております。

記

日　　時：　2001 年 2 月 16 日（金）午後 4 時～午後 6 時 30 分
会　　場：　東南アジア研究センター　東棟２階第１教室
京都市左京区吉田下阿達町 46
川端通り荒神橋東詰め

プログラム：

「環境保護政策下における農民の対応
ーベトナムとラオスの山岳地帯からの報告ー」

16:00-16:40
太田　翼　氏（京都大学農学研究科）
「ベトナム北部における農民造林の進展とその要因
ーフート省イエンラップ郡の事例ー」

ベトナムでは、ドイモイ政策の進展とともに合作社システムが崩壊し、一方で国有地の分配が進められた。その中で、社会林業造林プロジェクトが導入され、農民による所有地での造林が進んでいる。本研究は、ベトナム北部で農民造林が積極的に行われている２村落を事例に取り上げ、農民造林の進展要因について調べた。

ハノイの北西 80ｋｍに位置する調査地では、土地分配とともに複数の造林プロジェクトと樹種が導入された。これらの樹種の中から、農民は生業と上手く噛み合い、目的に合った樹種を選択していた。 例えば、収益を期待した農家はシナモンを、労働力が不足している農家はトンキンエゴノキなどの早生樹を選択していた。

農民造林の進展は、政府の政策と造林プロジェクトの導入、これらに対する農民の対応、恵まれた市場へのアクセスと自然環境という複合的な要因が上手く噛み合った結果であった。一連の過程は、農民造林が森林回復への対応として期待できることを示している。

16:40-17:20
岡田　尚也　氏（京都大学農学研究科）
「ラオス北部農村における焼畑面積の拡大とその原因について
－Oudomxai 県 La 郡 Lak15 村の事例－」

本研究では、長期的かつ継続的な聞き取りを通してラオス北部農村地域における焼畑農業の変遷と現状について把握し、現在の問題点をより明確に理解することを目的として 2000 年 5 月から調査を行った。

焼畑地拡大による森林破壊を抑制するために、1997 年に土地区分政策が施行された。この政策により、焼畑面積はいったん減少したが、1998 年からは再び増加の一途をたどっている。既に焼畑禁止区域の森林への侵入も始まっており、焼畑地不足の問題が深刻化している。

焼畑面積の急激な拡大は、村の人口増加の影響よりも、現金収入あるいは物々交換用としての米需要の増加や、需要価格変動の大きい換金作物に対する信頼性の低さなどによるところが大きいと思われる。また、モチ米よりも市場価格が高いウルチ米の栽培や、赤米の契約栽培など栽培する陸稲にも変化が見うけられた。

17:20-17:35 コーヒーブレイク

17:35-18:30 総合討論

問い合わせ先：
富田晋介　京都大学農学研究科地域環境科学専攻
Tel. 075-753-6352　mailto: tomita@kais.kyoto-u.ac.jp
柳澤雅之　京都大学東南アジア研究センター
Tel. 075-753-7345　mailto: masa@cseas.kyoto-u.ac.jp